



広報みまた

思い出づくり

三股小の校内キャンプ



六年間の思い出に、三股小学校六年生百二十一人は二十日と二十一日の両日、校内キャンプを行い、小学校最後の夏休みを楽しみました。

この校内キャンプは三年前から続けられている恒例の行事で、思い出づくりと集団生活の意義、協調性を養う目的で続けられており、生徒たちにも好評のキャンプでありました。

初日の二十日は広い運動場に二十五張のテントを持ち寄り、町教育委員会職員からテントの張り方の指導をうけた後、一斉にテントの設営が始まった。

後は待望の夕食へ、各家庭から持ち寄ったはんごうやなべで各班ごとに父母の協力でご飯とカレーづくり、男の子はご飯やカレーをつくるのは初めてで「男の子も女の子より、うまくできたぞ」「みんなで食べるとうまいな」と食欲もおう盛で、にぎやかな食事風景を繰り広げた。また、夜には校庭の一角でキャンプファイア、赤々と燃える火を囲み合唱やゲームが行われた。

52/9月号

田中町長

「対話の町政」で 美しい町づくりを



三股町長選は、私たち町民の異様な関心のうちに、投票率も九十一・〇三%と今までにない高率な記録が生まれました。こうして投票率も最近の社会経済情勢のきびしい折柄の中にあつて、町民の町政に対する高い意識のあらわれであると言えるでしょう。

「対話の町政」で町民の信頼を得て、二期、再び当選した田中町長への当選証書附与式は、去る八月二十二日、町役場中会議室において、

すぐれた伝統をもつ、躍進町政への意欲十分あるものが見られ、「対話」町政を基調として、かかげた公約の実現に努力し、より豊かな美しい町づくりに全精力を傾倒したい」と語り更に「身をもって感じた町民の声は謙虚な気持ちで、とり入れ、明朗にして充実した町政の躍進に専念したい」と決意を披瀝しました。

町長が町民の皆さんに約束した広範にわたる公約の実行によって、明るい町政、美しい郷土への力強い前進が期待されます。それによつてより豊かな、くらしよい町民生活がもたらされるのであります。これが私たち全町民の願いであります。

私たちが、これからは、町政に対する理解を一層深め、協力しあつて融和協調、美しい町、住みよ

和牛改良に一役

和牛生産に取り組み、本町和牛研究グループ(補原政次会長十五人)は、去る八月六、七、八日の三日間に渡り、繁殖用母牛の削蹄(さくてい)に奉仕した。

同グループは農業後継者の和牛生産に意欲のある青壮年が中心となり、昭和四十八年に結成されました。

それでは町長の公約を次にかかげてみましょう。

- (一) 人間の豊かな町づくり
- (二) ともに語り、ともに考え協力、信頼のある町づくり
- (三) 町政の基本方針
- (四) 生きがいのある福祉の充実
- (五) 農林業、特に農畜産の振興と生産基盤の整備
- (六) 中小企業の育成推進
- (七) 生活環境整備と生活関連道路の整備(地区内の道路)
- (八) 教育力の向上、社会教育の見直しと地域教育力向上の方策検討、学校教育施設の整備充実、町営図書館の充実と利用対策、一般、青少年スポーツ、レクリエーションの振興
- (九) 町行財政運営の合理化



牛のツメ切りに汗を流す青壮年部

武道体育館近く完成



完成近い武道体育館

スポーツ少年団、スポーツ愛好会の皆さん、おまたせしました。三股町が「スポーツ振興による町づくり」の施設として武道体育館が近く完成します。この武道体育館の建設費は、国民年金積立金還元融資をうけて建設されたもので、建物は鉄筋コンクリート一階建て床面積約一千六百平方メートルの広さで、事務室、会議室、機具室、玄関ホールが備えられ、バレーコートも二面とあります。「健全な精神は健全な身体に宿る」

老後に生きがいを

九月十五日から九月二十一日まで老人福祉週間

最近の物価の動向、経済情勢は、国民生活はもちろん老人層へ大きな影響を与えています。こうした時に、今までの老後対策をいっそう拡充し、老人福祉法の精神を具体化した総合的対策を確立することは急務であり、国、地方公共団体をはじめ、国民一人一人の問題として、々々の老後の生きがいとは何かを今こそ真剣に考え対応していく必要があります。本町における老人の人口動態は、七十才~七十九才が九百四十八名、八十才~八十九才が二百七十三名、そして九十才以上の長寿

老人福祉週間

9月15日▷9月21日

者、(明治二十年九月十五日以前の出生)は十六名を数え、その内本町の最高長寿者で百二才の原田イセさんも、ますます元気な余暇をエンジョイされています。近年の急速な医学の進歩や豊富な栄養を自由で豊かな生活を由りて、日本人の平均寿命は毎年その伸びを示しています。

人間、何と言っても健康が第一、特にお年寄りには生活環境が大きな影響を与えます。家庭での暮らし、すでに工事も着工している。この建設目的は、中小企業に働く勤労青少年のための体育施設を充実し、もつて勤労者少年の雇用の安定を計るもので、事業団から七千万円の補助金で、町中央公民館敷地に建設、こうして二つの体育施設の完成後は町民スポーツ振興の発展に大きな成果をあげるとともに、明るい豊かな町づくりに大きく役立っていくこと

生活条件が最も大切でしょう。また、お年寄りが皆んなから大切にされ、お年寄りご自身もその能力に応じて家庭や社会に役立つような仕事をして、々々の生きがいを感じる事が長寿の秘訣とも言われております。「老後に生きがいを」をモットーにみんなでお年寄りの健康に留意してあげましょう。以下、明治から大正、昭和の時代まで幾多の変遷にわたり、社会の発展に貢献されてきた長寿者(九十才以上)をご紹介します。誰んでも長寿をお祝い申し上げるとともに、ますますお元気で幸多かれと、お祈りいたします。

地区名	氏名	生年月日
山王原	神宮司エン	M20 9 4
野村	サキ	M20 9 4
野崎	重雄	M17 1 5
上米	原田イセ	M7 1 5
大村	平蔵	M15 8 5
谷	上原エン	M18 3 2
大さきす	瀬尾キク	M19 3 3
高畑	立山ユキエ	M19 12 7
梶山	鈴木兼章	M20 11 12
大野	西村清二	M18 11 12
野原	散二	M19 12 11
下新	山下ケイ	M11 7 18
老人ホーム	岩佐ツルマツ	M11 1 1
岩崎	キヨ	M15 1 3
中野	トミ	M15 3 1
		M19 5 3

秋の全国交通安全運動

9月21日から30日まで

こどもとおとしより

「弱者」の事故防止に重点

楽しかった夏休みも終わってこどもたちは新学期。これまでの開放的な毎日から、とたんに生活のリズムが変わり、注意力が散漫になり、交通事故に結びつきやすくなります。

また、おとしよりも外出の機会がふえ、道路を横切ろうとするときなどの事故も多くあります。

そこで、今年も九月二十一日から十日間、全国一せいに、「秋の交通安全運動」がくりひろげられます。

今年の運動は、「こどもとおとしよりを交通事故から守ろう」「シートベルトを着用しよう」「夜間の交通事故をなくそう」の三点。

なかでも、こどもとおとしよりの交通事故がこのところ目立っており、こんどの運動でもこの事故防止が重点です。

こどもとおとしよりを

輪禍から守ろう。

こどもとおとしよりは、自動車

の前では弱者そのものです。

自動車にはねられて死亡した歩行者と自転車乗りは宮崎県で昨年が五十一人、本年度もすでに八月一日現在で二十四人が亡くなっています。

また、都城警察管内でも本年度八月一日現在で八人が亡くなっており昨年同様に三人で、県下で延岡警察署と都城警察署に丙号



最近市内で発生した事故

緊急事態（弱者死亡事故抑止）発令がなされ、都城警察署も全署員を動員しての取締が強化されています。

元気いっぱいプレー 夏の青少年を伸す球技大会

児童たちが待ちに待った、昭和五十二年度青少年を伸す運動ソフト大会が、三股小と三股中の両グラウンドで去る八月十六日に開かれました。



熱戦が展開されたソフトボール大会

児童たちが待ちに待った、昭和五十二年度青少年を伸す運動ソフト大会が、三股小と三股中の両グラウンドで去る八月十六日に開かれました。成績は次のとおり

- 準優勝 第三地区公民館 中学校の部(男子ソフト)
優勝 第四地区公民館 準優勝 第二地区公民館 (女子バレー)
優勝 第二地区公民館 準優勝 第一地区公民館

民生委員制度が創設されて、今年で六十周年になります。岡山県で、民生委員制度の前身である済生顧問制度が生まれた時、わずか三名が委嘱されて出発を経て今日、全国で十六万という数の民生委員をよつうという広がりを見せているのを知るだけで

民生委員制度六十周年

も、民生委員が残してきた実績が大ききわがる。生活の方向を失いかけた人や生活に追われた人々が、方面委員、民生委員によって、それだけ生き生きと活動している。また、この人々の活動の中の切実な考え方の

中で、福祉制度が発想され、つくられてきたことである。大阪の方面委員制度(民生委員は昭和二十一年まで方面委員と呼ばれた)の生みの親である林市蔵先生は、その著書の中で「方面委員制度をつくること、この利益追求意欲の強い土地柄の中で、何の特典もなく、かつ無報酬で、生活して困難する人々に援助の手をさしよる」というこの制度が永続す

貴重な財源 = たばこ消費税

昭和五十一年度は当初で二千八百十... たばこ消費税は、町税、固定資産税等の収入の八%にもなり、町の貴重な財源になっています。

昭和51年度たばこ消費税、売上数量

Table with 3 columns: Item, Total, Per Person. Rows include total income, tobacco consumption tax, and sales volume.

見せているのが現状であります。ところが、三股町は年々世帯、人口ともに増えており、人口の比率にしても喫煙者が増え、たばこ消費税の伸びるのが当然なことではないでしょうか。たばこ消費税は貴重な財源であり、福祉の充実、環境整備、公共施設の整備等に大へん役立っています。



るだろうか?と多くの人は疑問を投げかけたことと述べられていることと併せ考えると、ようこそその感を強くいだくのである。民生委員の活動は福祉制度が十分でなかった時代から、今日のようにならぬ福祉制度が充実した時代での要請される役割には、おのずと変化がみられる。しかし、民生委員が住民と同じ生活の重みの中で、生活の重みを感じながら、住民の生活を守っていくという。民間性、地域性、奉仕性については、六十年間、一環して流れる民生委員の基本的性格であるし、だからこそ、いかなる時代とも民生委員制度は重視され、拡充が図られてきたのである。本年はたまたま、民生委員は三年の任期が十一月で終わる年である。識見豊かな、そして人格高邁な方々が推せんされ、明るい町づくりに貢献されることを祈ってやまない。

省エネルギーへの挑戦

最近、省エネルギーと言う問題がテレビ・新聞紙上でよく聞かされてきていることは周知のとおりであります。一九八五年〜九〇年代には、世界的な石油危機が到来するものと見られていた。なかでも、わが国のエネルギーは九十九・六%を海外からの輸入にたよっているが、世界第二位の石油多消費国であり、エネルギーへの危機感が皆無に近いのが実情です。

将来のエネルギーを確保するためには、積極的な省エネルギー政策、代わるエネルギーの開発など総合計画の実施が急務だと強く求められています。

そこで、車の省資源型運転について述べて見ましょう。

▽：省資源時代というので、最近のドライバ―は「燃料」を気にするようになってきた、だが本当にそのような車の使い方をしているだろうか。例えば「きみのクルマはリットル当りのくらゐ走る？」と聞かれても、リストを明示

できる人は十人に一人いるかいないかだ。

▽：アイドリングを平気で八分も十分も続ける人、交差点ダッシュで常に先頭を走るたちの人、高速道路ではどのような状況でも百キロプラスアルファと考えている人、やたらに車線をかえ、ブレーキを踏んでばかりいる人、

▽：こういった人は、一般に一〇%はガソリンをムダに捨てているといつてもよい。オートマチック車は燃料をよけい食うというが、アクセルリングを静かに操作し、無理なスピードで走らなかつたら、同じ排気量の四速よりも経済的だった例もあるそうです。

こうした車の省エネルギーの一例を上げてみました。省エネルギーは、資源の消費をそれぞれ減らすことだけでなく、廃棄物を少なくし公害を減らすのにも役立つ、つまり、省エネルギーは、環境保全にも貢献する。

愛のご寄付

三股町社会福祉協議会では、忌明け寄付を次の通り頂きました。故人の冥福をお祈り致しますと共に社会福祉進展のために有意義に利用させて頂きます。

昭和五十二年六月二十五日より
昭和五十二年八月二十五日まで
忌明け寄付

納入者 故人名	部落	金額
桑水流武雄	桑水流キクヨ	五千円
木佐貫清盛	木佐貫清雄	一新円
野崎定綱	野崎ハルエ	勝岡一万円
今村サカヨ	今村才之助	田上 二万円
松田義成	松田ツルエ	東原一万円
内村尚徳	内村ハヤ	小サ 一万五千円
山田重成	山田セク	梶山 一万円

松永幸男	松永ヨシエ	勝岡二万円
桑畑キクエ	桑畑利則	東原一万円
馬渡宏好	馬渡セイ	飯屋 一万円
福島正秋	福島正則	勝岡 三万円
坂元ヨシエ	坂元利盛	山王原一万円
久寿米木キク	久寿米木嘉助	大サ 三万円
木佐貫克美	木佐貫スマ	上新 二万円
佐沢迪弘	佐沢信平	上新 二万円
瀬之口正三	瀬之口エキ	山王原一万円
北野ユキ	北野実清	上新 四万円
飯屋光義	飯屋スエ子	梶山五万円
一般の方寄付		
三股町将棋愛好会		
会長 田中幸三郎外		二千元
東原老人クラブ	これから会	
	雑布	百三枚
	おむつ	五十一枚
昭和四十三年より通算		
おむつ		七百八十枚
雨傘		東都城駅へ三百十本



9月納税 固定資産税 2期

三股町の人口

昭和52年8月1日現在

人口	16,334人
男	7,683人
女	8,651人
出生	21人
死亡	8人
世帯数	4,955戸